

検査内容変更のお知らせ

拝啓 時下益々ご清栄のこととお慶び申し上げます。
平素は格別のお引き立てをいただき、厚くお礼申し上げます。

さて、この度、下記項目につきまして検査委託先より検査内容変更の連絡がありましたので、
取り急ぎご案内する次第です。

健康と医療の未来に貢献すべく、より良い検査サービスのご提供に努めてまいります。

敬具

記

■変更期日

2024 年 5 月 1 日(水)より閲覧可

■対象項目

染色体検査(SRL 染色体検査報告書)

■変更内容

「SRL 染色体検査報告書」において、染色体検査における、増殖不良についての説明文書を
閲覧するためのQRコードが追加されます。

※裏面参照

以上

【説明文_増殖不良報告について】

増殖不良とは？

培養しても G-band 検査の対象である分裂中期 (Metaphase) の細胞を得ることができず、分析不可能であったことを意味します。

増殖不良の原因は？

主な原因は 4 つ考えられます。

①検体に含まれる有核細胞数が検査に必要な目安となる 1×10^7 個未満であったため、Metaphase が得られなかった場合。

②有核細胞数は検査に必要な 1×10^7 個以上あったが、分裂可能な細胞が少なく Metaphase が得られなかった場合。

③検体に含まれていた細菌の繁殖により細胞分裂が阻害され、Metaphase が得られなかった場合。

④ご提出いただいた検体に十分な有核細胞が含まれていても、細胞周期と培養条件が合わなかった場合。

リンパ節や組織で増殖不良率が高い原因は？

①骨髓液や血液と比較した場合、検査に必要な有核細胞数が得られない傾向があります。

※組織片が大きい場合でも線維化している場合には、有核細胞を得にくいことがあります。

②検査に必要な有核細胞数は得られても、腫瘍細胞の増殖能が低く増殖不良になる場合が多くみられます。



※造血器腫瘍の G-band 検査は、腫瘍細胞の増殖能を利用するため分裂刺激因子は添加していません。

③全血や骨髓液に比べて細菌汚染されているケースが多いため、増殖が阻害されていることがあります。

※特に胃や腸などの組織は、細菌汚染されている例が多くみられます。

④検体採取から搬入までに検体採取後の処理や保存状況によって、細胞の増殖能が低下していることがあります。

【閲覧場所】 報告書下部にあります、QRコードから閲覧が可能です。

SRIL 染色体検査報告書		23-05-17 0030-00-03000-02920	発行 05年 05月 17日
病院名 117-111 LUSTER HP	科 名 血液	カルテNo. 9101112134	提出者 山崎 先生
氏 名 山崎 先生	性別 M	年齢 30才	病棟 T3F
検査項目	検査方法	検査結果	検査所見
【 検査項目 】 ケイヒG. BAND-MDS	【 検査方法 】 G-band	【 検査結果 】 バンドレベル: 300~550	【 検査所見 】
	【 培養方法 】 PHA無添加	24・48時間培養	
	【 検査所見 】		
[細胞数]			
【総分析細胞数】			
【 検査結果 】 検査コメントをご参照下さい。			
【検査コメント】			
*お預かりした検体につきまして上記方法にて培養を実施いたしました。その結果、分析可能なMetaphase(分裂中期核板)が得られず、「増殖不良」の報告とさせていただきます。 なお、検査後のカルノア固定細胞はご依頼日から3ヶ月間保存しております。そのカルノア固定細胞を用いてFISH検査の追加が可能な場合がございますので、ご希望のFISH項目がございましたらお問い合わせください。			
染色体検査で用いられる代表的な記号と略語。 核型記載は右記 URL をご参照下さい。		検査者 春川純一	責任者 本山サチエ 標本No. E230517-4E0002
	SRIL 株式会社 エスアールエル	検査日 05年 06月 01日	&1
117-111 東京都あきる野市洲上50番地 ☎ 03-6837-6344	検査責任者 和田かおり		